

平成 28 年度研究推進計画

1 研究主題，研究内容等について

(1) 研究主題

【研究主題】 主体的な学びをはぐくみ，思考力・表現力を育成する学習指導の工夫
～「課題発見・解決学習」を通して～

(2) 主題設定の理由

変化の激しい今後の社会を担う児童生徒に必要な資質・能力を身に付けさせるためには，これまでの知識ベースの学びに加え，これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成を目指した「主体的な学び」の創造が求められている。

本校では，昨年度まで研究主題を「思考力・表現力を育成する学習指導の工夫」とし，「問題解決的な学習の単元構成の工夫」と「かかわり合うことの良さを実感できるような学習指導の工夫」を進めながら国語科と算数科の授業改善に取り組んできた。その結果，海田町標準学力調査では，全国平均と比較して，国語科（活用）で9%，算数科（活用）で9.8%上回った。これは，活用力の中心である思考力・表現力を育成した成果と言える。さらに，問題解決的な学習の単元構成を工夫してきた結果，既習事項と関連付けながら学習することが定着してきた。しかし，かかわり合いについては，自分の考えを深めている児童とそうでない児童に二極化しており，かかわり合いの質を高めることが十分でなかった。これは，児童にとって友達や学習材とかかわりあう必然性を十分にもつことができず主体的に学ぶことが難しかったためだと考えられる。

これらの実態を踏まえ，これまでの取組の深化を図りながら，さらに主体的な学びや思考力・表現力を高め，確かな学力の向上を図る取組を推進していく必要がある。そのために，本年度は，生活科や社会科，総合的な学習の時間を中心に「課題発見・解決学習」を積極的に取り入れていく。具体的な対象（ひと・もの・こと）と出会い，児童のこれまでの考えとの「ずれ」や「隔たり」，対象への「あこがれ」や「可能性」を感じて課題を設定することは主体的な学習意欲を引き出すものである。また，情報を収集・分析し，それをまとめ・実行していく過程で，言語活動の充実を図ることで，相互の学び合いによる思考力や表現力の育成にもつながっていく。

このように，「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・創造・表現→実行→振り返り→」のサイクルの中で，研究主題「主体的な学びをはぐくみ，思考力・表現力を育成する学習指導の工夫」にせまっていきたい。

(3) 研究仮説

生活科や社会科，総合的な学習の時間を中心に，言語活動の充実を図りながら「課題発見・解決学習」の単元構成による授業づくりを行えば，一人一人が主体的に学ぶ力が向上し，思考力・表現力を育成することができるだろう。

(4) 研究内容

- ①主体的な学びを構築するための「課題発見・解決学習」
 - ・実生活とのつながりを意識する単元や学習活動の工夫
 - ・教材との出会わせ方の工夫
 - ・学習の見通しのもたせ方の工夫（既習とつなげて課題をもつ等）
 - ・かかわり合う力を明確にした学習指導の工夫
 - ・学習活動の充実（学習したことを振り返り，共有する等）
 - ・児童による評価の質の向上（自己，他者）
 - ・個や集団の学びの質や深まりを把握するための評価の工夫
- ②思考力・表現力を高める，目的を明確にした言語活動の充実（発達段階に応じて）
 - ・記録，要約，説明，論述等の学習活動
 - ・思考のプロセスを書くことの習慣化
 - ・個の考え，他の考え，新たな個の考えを書く習慣化
- ③学習基盤づくり
 - ・学習規律の定着
 - ・基礎・基本の定着
 - ・共感的・協働的な学級集団づくり

2 研究の方法

- (1) 理論研修（研究主題に関わる共通認識）
- (2) 授業研究（全学級・専科で1回の授業研究を実施）
 - ・各学年で1つは全体研修とする。全体研修ではない学級は，ブロック研修とする。
 - ・単元で育てたい力について学年で明確化を図る。
 - ・ブロックごと（社会部，総合（生活）部）で指導案検討をして修正をする。西中校区公開研の指導案については，全体で事前研修を行う。
 - ・学年で事前授業を行い，指導案の修正をする。（できるだけ多数で参観する。）
 - ・社会科，生活科，総合的な学習の時間を基本とするが，研究主題に沿うものであれば他教科でもよい。
 - ・全体研修の指導案は，起案後，学年部で印刷，配布する。講師の先生には2週間前に送付する。

3 検証計画

- (1) 授業研究の検証（児童のノートやワークシート等，授業記録）
- (2) 標準学力調査各種学力調査（1月）の分析
- (3) 児童の意識調査の実施と分析
- (4) 教職員の意識調査の実施と分析

4 研究組織

